



■ Web サイトの脆弱性を狙った攻撃

すぐに攻撃される、という現実

2017/3/8、IPA(情報処理推進機構)に「Apache Struts2(アパッチ・ストラツツ2)」という大変有名な Web サイト制作ソフトの脆弱性が揭示されました。この脆弱性があるバージョンを使っていると、サーバーが(実質的に)「乗っ取られて」しまいます。

この脆弱性を狙った不正アクセスが、弊社の保有する6台のサーバーにありましたので「攻撃の実態」をレポートします。弊社ではこれに関連するソフトウェアを導入しておりません。

図は日付ごとの攻撃者の数です(重複あり)。3/23 から驚くほど急激に増え、その後(弊社のサーバーを乗っ取れないことがわかると)急激に減少しました。



脆弱性の発表からほぼ2週間でもつぜんこれだけの不正アクセスがあるのも驚きですが、この攻撃元を調べてみるとさらに驚くべきことがわかりました。下の図は攻撃者の分布です。なんと46か国から不正アクセスがありました。丸の大きさは攻撃者の数を表しています。弊社のお客様の Web サイトの大半は、日本国内向けなのですが攻撃者は Web をたぐって(言語に)関係なく攻撃してきます。

脆弱性はいつ発見・発表されるかわかりませんので、日々の情報収集と発見された場合の迅速な対処が重要です。

